



在京関中一高会 会報



「忘れない3・11！ 視て、聞いて、語ろう。東北の自然災害と復興の歴史を。」

ご挨拶

在京関中一高会会長 柳澤 惇 (昭和32-56回卒)



同窓生の皆様に於かれましてはご健勝にてお過ごしのことと拝察致します。

東日本大震災以来早2年が経ち復興も進んでいることと思います。

さて、誠に残念なことに顧問をお願いしている阿部次郎氏が昨年8月に、又、佐藤義行氏が今年1月に共に会長経験者をご逝去されました。故佐藤氏は健康上の理由で在任期間は短期でしたが、故阿部次郎氏は昭和30年母校が東北初の甲子園選抜大会出場の際に寄付集めと同時に

本会を発足させ、当初から幹事長に就き、又、40周年記念まで会長を務めたのであります。実質的に本会を作って育ててきたと言っても過言ではありません。甲子園選抜については氏のお力添えが大きかったときいております。

その伝統を受け継ぎ再来年は60周年を迎えることになります。同窓会活性化には私は同期会の協力の積極的な後押しがなければならぬと思っています。もう関中時代の先輩は殆んど参加出来なくなっております。私が会長になった時は年次構成が半分より下でしたが、今は上から10~20パーセントに上がってきました。

毎年、1500名の方に案内状を出しますが、返信されて来るのは5~600名でこの結果をどう見るかですが、私自身は上出来と思っています。やはり、昭和40年位までの方々でしょうか。又、講師と同年代の方々は応援の意味でも大勢集まってほしいものです。不特定多数にやみくもに出しても無駄じゃないかとの意見も有りますが、会報等で同窓生の活躍や動静を知ることは各人にとっても励みになるものと思います。是非、同窓会に参加してください。

ところで今年の講演の講師は63回生の千坂嶮峰氏をお願いしております。氏は僧職にあって樹木葬や、又、未来遺産運動としての自然再生を常日頃考えておられる方です。それらの所信の一端をお話して頂ければ、と思っています。

復興は曙光・3月の別れ

一関一高同窓会会長 佐藤 悦郎 (昭和21-45回卒)



東京支部の皆様、御壮健の御事とお慶び申し上げます。東北の地・沿岸部は、未曾有の大震災からはや2年余の歳月が流れましたが、復興はなかなか大変で最近漸く一部の自治体で、念願の高台地移転の目安がついて着工しています。

このような復旧遅延の状況のなかで、釜石・大槌支部同窓会が、震災後初めて2月21日開催されました。心待ちにしていた開催が大変早めの案内に驚きつつ出席致しました。塚本支部長さん始め役員の方々の並々ならぬご努力の賜と存じます。当日は、少人数の会合ながら、皆さんお元気で、楽しいひと夜をゆっくり歓談出来ました。実にいい会でした。ただ、常連の前支部長の澤田祐喜さんが、津波で御逝去されて見えないのが残念でした。

別れと出会いの3月、木村校長先生は、3年間の学校運営に練達の指導をなされまして、惜しまれつつ停年退職されました。教育界の60歳停年は早すぎるのでは、といつもこの時季になると感じます。

木村校長先生は、同窓会支部総会にすべて出席を賜り心から御礼を申し上げます。岩井副校長先生は久慈工業高校校長、茂庭定時制副校長先生は盛岡南高校校長にご栄転。同窓会事務局の中村先生は、一高在任1年で県教委に転勤になり、がっかりしていたところ、横山前事務局長が復帰される事になり大きな安堵感に浸っています。教職員総勢20名の異動になりました。

以上簡略ながらご報告を申し上げ今後共同窓会運営に御協力をお願いいたします。御挨拶と致します。

平成25年度総会・講演会・懇親会

平成25年6月16日(日) 午前10時半受付開始

東京(大塚) ホテルベルクラシック東京

<講演>

「久保川イーハトーブ世界と樹木葬の里」

講師：千坂 嶮峰 氏 (63回-昭39年)

続ける「関高生」として地域の高い評価を不動のものとしていることを感じます。

校歌にも謳われている校是・校訓は、地域・万人がこぞって価値を認めているところです。「高い志」を抱いて本校に集った生徒諸君が、「質実剛健」「修文練武」の精神で互いに「切磋琢磨」し合いながらそれぞれの道に挑戦していくことを教職員とともに手助けして参りたいと思いを新たにしています。

本校の魅力である古き良き伝統と、県立学校の魁となる併設型中高一貫校としての若々しい可能性をかみ合わせて、いっそう伸びやかな学校にしていきたいと考えますので、在京関中一高会の皆様には今後とも物心両面に渡りまして変わらぬご支援とご指導をいただきますようお願いいたします。

県立学校の魁となる併設型中高一貫校

一関一高 校長 坂本 晋



このたび木村毅前校長の後任として、紫波総合高校から着任しました坂本晋と申します。初の県南勤務ですが、その場所が名にし負う東北地方の雄として、これまでに多くの俊英を世に送り出してきた関高であることを大変光栄に思います。

まだ日は浅いのですが、玄関前に、郷土が生んだ賢人である大槻文彦博士にちなむ、「遂げずばやまじ」の石碑と「不撓不屈」の石碑が相対するように建立され生徒諸君を鼓舞しているのを見て、深い

感銘を受けました。

生徒諸君は日々の学習はもちろん、部活動、学校行事、生徒会活動、奉仕活動、国際交流活動等に生き生きと熱意を持って取り組み、大学進学実績や、部活動の成績等その成果は近年めざましいものがあります。こうした挑戦の姿勢と不断の努力の積み重ねが、向上し

平成24年度在京関中一高会 総会・講演会

第1部 総会



柳澤会長挨拶



同窓会会長挨拶



母校木村前校長挨拶



42回（昭和18）～57回（昭和33年）



58回（昭和34）～86回（昭和62年）

第2部 講演会

『「3・11」から東北・日本を考える』

講師：増田 寛也 氏



第3部 懇親会

平成24年6月17日 ホテルベルクラシック東京



同期会ニュース

珊瑚会(昭35-59回)：今年の秋、関東地区珊瑚会が実行幹事となり一関本部を含めた全体会を熱海で計画。(及川忠雄)

38会(昭38-62回)：私どもが一関一高を卒業して今年50年目という節目の年に当たり地元一関で1月23日に同期会を開催。ホテルサンルート一関で90名に近い参加者を得て懇親会では旧を温め昔話を花を咲かせた。関東からは27名。次回は5年後か、10年後の卒寿の会かな？(柳澤正孝)

39会(昭39-63回)：昨年12月12日、かんぼの宿(巖美溪)で「忘年39会」を開催。首都圏からの参加者12名を含めて66名が参加し大盛会。(須藤正夫)

無垢の会(昭45-69回)：平成24年11月3日(土)に、仙台市太白区秋保温泉「華乃湯」で開催。仙台支部のご尽力で、同期生47名(首都圏から14名)が参加。秋保神社宮司による還暦祝いのお祓いを受けたのち、校歌と応援歌を斉唱し、懇親会を行いました。高校時代の思い出、震災の復興状況、国際リニアコライダー誘致等の話題で盛会。(上野次郎)

昭47-71回：最後の卒業旅行が、平成25年1月26日(土)、27日(日)に、巖美のいつくし園で開催。参加者は90名を超え、恩師も学年主任阿部節郎先生(英語・御年91歳)をはじめ、金野正格先生(国語)、蛭名将先生(英語)、菅原健先生(物理)、相山敏夫先生(英語)、吉野正子先生(保健体育)の6先生も出席。宿泊者も50名超で夜の部も大盛会。(小野寺一)

会員トピックス

佐藤成元(昭27-51回)：日展日本画会員。今春3月、岩手震災復興絵画展「北リアスの風」に出展。昨年、ドイツのクリスマス・マーケット巡り。今秋、六本木のドイツレストランで個展予定。

伊藤孝雄(昭30-54回)：劇団「民藝」俳優。4月10日～22日、新宿紀伊国屋サザンシアターで「民藝公演「夏・南方のローマンス」」に出演。4月21日に終演後、同期会「伊孝会」18名出席で開催。

千田隼生(昭32-56回)：劇団「銅鑼」俳優。2月27日～3月3日、六本木俳優座劇場で「銅鑼」創立40周年記念公演「からまる法則」に出演。昨年二度の手術から再起の好演。貫禄。

菅原チネ子(昭32-56回)：劇団「朋友」俳優。2月18日～27日、新国立劇場で、朋友公演。藤真利子主演の「真砂女」に出演。名脇役として貫禄の熱演。

千葉忠夫(昭34-58回)：NPO法人日本・デンマーク生活研究所理事長。デンマーク在住。5月18日(土)、デンマーク生活研の平成25年度総会出席で来日。

島地勝彦(昭35-59回)：作家、元集英社インターナショナル社長。本年3月28日、第9作「アカの他人の七光り」(講談社)を上梓。好評。昨年は、伊勢丹メンズ館8階に「サロン・ド・シマジ」を開館。休日には本人が店に出て対応している。活動のエネルギーは益々旺盛。

菊地泰博(昭35-59回)：出版社・現代書館社長。硬派の出版社を率いて45年、教育、福祉、社会問題、芸術等の名著を世に問い続けている。近刊「東北・蝦夷の魂」(高橋克彦著)は、アレイの時代から明治維新、大震災・原発問題に至るまでの、中央政権とふるさと東北の関係を描いた力作。既刊「シリーズ藩物語『一関藩』」もある。

小山芳郎(昭39-63回)：元NHKプロデューサー、ジャーナリスト。5月発刊の「総合人間学7」(総合人間学会編・電子ジャーナル版)に「3・11から人間を考える」を発表。同級生の津波での死、北のホットスポット、世界一の地震最大加速度記録(2008年)など、ふるさと一関への思いも原点にあります。

大井川 公(昭42-66回)：旧都庁職員。母校を舞台に、一関の魅力と歴史を背景に、小説「関高健児」を東京図書出版から自費出版。高校時代を懐かしく思い出せます。

上野吉一(昭54-78回)：名古屋市東山動物園企画官、理学博士。平成24年10月7日、本部同窓会で「動物園から考える"学び"」と題して講演。

佐藤(宇田川)恵利(昭52-86回)：オペラ歌手、ソプラノ。今春2月3日、新国立劇場でのオペラ協会公演「天守物語」に、主役級の亀姫役で出演。大熱演に本会会員を含め観客を魅了。

中田江利(平5-92回)なかだえり：イラストレーター。淡行社から『駅弁女子日本全国旅して食べて』発刊。得意のイラストで。

惜別



阿部次郎氏：(32回-昭8年卒)

本会第三代会長。一関出身。

平成24年8月28日、96歳の天寿を全うし永眠。「郷友和親」を人生訓とし、本会の結成に尽力。昭和30年のセンバツに東北初の出場を実現。寄付集めに奔走。旧関中会を新制一高卒業生と併せ、在京関中一高会を結成。幹事長に就任。

昭和60年の結成30周年総会で会長に就任。五期10年の会長を勤め、平成7年結成40周年記念総会で顧問に就任。正に本会の生みの親であり、育ての親でした。ご冥福を祈ります。



佐藤義行氏：(47回-昭23年卒)

本会第四代会長。室根出身。

平成25年1月6日逝去。享年83歳。弁護士として弁護士会で部会委員長歴任。

昭和48年の総会で副会長、平成7年総会で本会会長に就任。体調勝れず平成9年8月顧問に就任。穏やかな人柄で皆から信頼される方でした。

ご冥福を祈ります。

「ミュージカル平泉・夕焼けの向こうに」米国公演

米コロラド州オーロラ市市長からの招待で、平成26年3月の講演実現へ。阿部興起(56回-昭32)実行委員長。

クラブOB会ニュース

母校野球部は、今年の4月より8年間、監督と部長に携わっていましたが平成元年卒の鈴木浩監督が3月末で監督を退任され、学校教諭も退職されました。長年硬式野球部の発展にご尽力いただき、在京野球部OB会としまして厚く御礼申し上げます。特に、6年前の春の東北大会初優勝をはじめ、今年の秋県大会3位、東北大会出場、今年の秋の東北大会は明治神宮大会優勝の仙台育英と1回戦で、善戦された事には敬意を表します。

今春今夏の母校野球部の活躍、大いに期待できます。なお、新監督は久慈高校→筑波大学でご活躍された45歳の八重樫徹先生(昨年部長)が赴任する予定です。

付属中学からの優秀な選手も入部予定であり、昨年秋の実績を上回る成果が期待できます。

また、例年3月末に首都圏遠征ということで在京中一高会OB会様から多大なる寄付をいただいておりますが、今春は首都圏遠征は中止し、地元での体力づくりと基礎練習に方向転換しまして、今春今夏に備えております。

母校、野球部の活躍に今後ともご期待ください。

(高橋 伸：第80回-昭56年卒)

事務局便り

●本欄記事内容等に関するお問い合わせは、在京関中一高会事務局へご連絡下さい。また、在京関中一高会のホームページは利用者のニュース提供を歓迎します。

ホームページ：<http://www.ichinoseki-1.com/>

事務局：info@ichinoseki-1.com

【岩手県人連合会ニュース】

平成25年度「岩手県人の集い」(第39回)は、

平成25年度6月2日(日)10時受付。

日暮里・ホテルラングウッド。

参加費 一人 8,000円(家族は2名で 15,000円)。

当日のアトラクションには、「釜石市鶴住居虎舞」他を予定。

連合会ホームページ参照。<http://www.rengokai-iwate.jp>

参加希望者は事務局まで。

(幹事長 清野 翼)